

2022 推・帰・社

受験  
番号

## 医学部保健学科

### 小論文Ⅲ問題

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この冊子のページ数は3ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合は申し出てください。
3. 問題冊子の余白は下書きに使用してもかまいません。
4. 解答は所定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。
7. 問題 **1** は全員が解答してください。  
問題 **2** は [A] , [B] , [C] の中から1題を選択し、  
解答してください。解答用紙（その3）に、選択した問題の記号を○で囲んでください。

問題 1 は、全員が解答用紙（その1）、（その2）に解答すること。

問題 1 次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

ささやかな政策を取り上げたい。巨大な国家からすると砂粒のような政策だ。だけど、そこには私たちの社会のあらゆるところで生じている苦悩が表れている。

「心のサポーター養成事業」のことだ。今年度の予算規模は3千万円弱。厚生労働省の発表によれば、安心して暮らせる地域作りのために「メンタルヘルスやうつ病や不安など精神疾患への正しい知識と理解を持ち、メンタルヘルスの問題を抱える家族や同僚等に対する、傾聴を中心とした支援者」を、10年で100万人養成するとのことだが、実際の中身は地域住民に2時間程度のメンタルヘルスの研修を受講してもらうくらいのことだから、正直素人に毛を生やす程度の話だ。だけど、侮っちゃいけない。この<sup>(1)</sup> ささやかな毛がきわめて貴重なのだ。

メンタルヘルスケアというと専門家が特別なことをするイメージがあるかもしれない。だけど、本当の主演は素人だ。実際、私たちが心を病んだとき、最初に対応してくれ、そして最後まで付き合ってくれるのは、専門家ではなく、家族や友人、同僚などの素人たちではないか。

たとえば、最近離婚した同僚の様子がおかしいとき。あなたは彼の受けたダメージを思い、心配になる。だから、気を使い、仕事を分担し、気晴らしに誘う。そうこうしているうちに、彼は少しずつ回復し、気づけば以前のように働けるようになっていく。多くの心の危機が、専門家の力なんか借りずに、なんとかやり過ごされていくものなのだ。

ここで働いているのは、古くは哲学者のカントが<sup>(2)</sup>「世間知」と呼んだものの力だ。つまり、世の中とはどのような場所で、人生にはいかなる酸いと甘いがあるのかについての、ローカルに共有された知のことである。この世間知が、離婚の傷つきや回復のプロセスを想像することを可能にし、必要とされているケアを準備し、コミュニティーに彼の居場所を確保してくれる。素人たちは世間知に基づいて、互いを援助しあう。と書くと、楽観的過ぎるかもしれない。世間知にはコミュニティーから人を排除する力もあるからだ。例えば、先の離婚の彼が、しばらくたっても回復しなかったらどうか。仕事が滞り、不機嫌が続く。いつもイライラしていて、周りに当たることもある。すると、世間知は彼を持て余し始める。彼は理解できない存在になり、厄介者扱いされるようになる。孤立していく。

そういうとき、専門知が解毒剤になる。「うつ病じゃないか?」。誰かが言い出す。それが視界を少し変える。仕事の滞りやイライラがうつの症状に見えてくる。すると、周囲は彼に医療機関の受診を勧めたり、特別扱いしたりできるようになる。

この素人判断こそが、心のサポーターに生えたささやかな毛だ。うまく専門家につながれば、そこで適切な理解を得ることができるし、すると彼の不機嫌さが悲鳴であったことがわかる。「厄介者」はケアすべき人になる。

これが心のサポーターの背景にある「メンタルヘルス・ファーストエイド」の思想だ。心のサポ

ーターとは、専門知を浅く学ぶことで、とりあえずの応急処置や専門家につなぐことを身につけた素人なのである。専門知が世間知の限界を補う。

ただし、専門知がときに暴力になることも忘れてはならない。「うつ病だ」「不安障害だ」と名指しされることで、本来だったら周りから見守られながら取り組むはずだった人生の課題が、心理学や医学の問題にされる。すると、人はまた別の意味で孤立してしまう。それくらい専門知にはパワーがある。

心理士をしていると思う。私たちは大学院で山ほど専門知を学ぶが、それらは世間知抜きでは運用できない。世間知によってクライアントの生きている日常を想像できないと、支援は専門知の押し付けになり、非現実的になってしまう。だから、心理士もまた、プライベートでは専門家の帽子を脱ぎ、自分の人生をきちんと生きるのが大切だ。そうやって世間と人生の苦みを知ることが、専門知を解毒するのに役立つ。

今、私たちの社会は大きすぎるし、複雑すぎる。だから、世間知だけでも、専門知だけでも、個別の心の複雑な事情を把握しきることは難しい。そのとき、<sup>(3)</sup> 専門知が世間知の限界を補い、世間知が専門知の暴走を制御する。両方がせめぎ合うことによって、苦しんでいる人の複雑な事情を複雑なままに理解することを試みる。結局のところ、心のケアとはそういう試みを積み重ねることなのである。複雑に理解されることが、その人らしさを保証し、コミュニティーに居場所を作ることになるからだ。それが孤立を和らげる。

いや、心だけじゃない。あらゆる社会課題がそうだ。新型コロナウイルス対策にしても、政府の意見があり、専門家の意見があり、世論があつて、摩擦が生じている。世間知と専門知がせめぎあい、混乱が生じる。だから、<sup>(4)</sup> 素人は毛を生やし、専門家は帽子を脱ぐ。そうやって対話と調整を続ける。それがこの複雑で余裕のない社会を小規模改善していくために必要なことなのだと思う。

(朝日新聞「心を守る「毛」を生やそう 東畑開人さん語る、素人の力」2021年7月10日の記事を一部改変)

朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。承諾番号22-1344

問1 下線部(1)のように考える理由を150字程度で述べなさい。

問2 下線部(2)世間知の正の側面と負の側面をそれぞれ50字程度で述べなさい。

問3 下線部(3)は具体的にどのような結果をもたらすか。100字程度で述べなさい。

問4 下線部(4)は具体的に何をおこなうことか。100字程度で述べなさい。

問題 2 は、[A]、[B]、[C]の中から1題を選択し、解答用紙（その3）に解答すること。  
解答用紙（その3）に、選択した問題の記号を○で囲みなさい。

問題 2 — [A]

電池と可変抵抗器を直列に接続し、可変抵抗器の抵抗を変えながら電池の端子電圧を測定したところ、電流値が増えるに従って端子電圧は減少した。電流値が0.2 Aのとき端子電圧は1.5 Vであったが、0.4 Aのとき端子電圧は1.4 Vになった。この現象について、抵抗、電圧、電流をそれぞれ定義し、式を用いながら説明しなさい。さらに電池の起電力を求めなさい。以上について200字程度で述べなさい。

問題 2 — [B]

$\text{Ag}^+$ 、 $\text{Cu}^{2+}$ 、 $\text{Al}^{3+}$ の3種類のイオンが溶解した水溶液がある。これに塩酸を加えると白色の沈殿が析出したため、ろ過して白色粉末①を分離した。次に、このろ液に硫化水素を通じると黒色の沈殿が析出したため、ろ過して黒色粉末②を分離した。このろ液を煮沸して硫化水素を取り除いた後、残った液にアンモニア水を加えると、白色の沈殿が析出した。この白色沈殿③は、水酸化ナトリウム水溶液を過剰に加えると溶解した。化合物①～③の名称に言及しながら、これら一連の現象について200字程度で述べなさい。

問題 2 — [C]

カエルの発生において、卵黄が植物極側にかたよった端黄卵であることをふまえて、受精、卵割から原腸の形成までを200字程度で述べなさい。